作成日：2019 年 1 月 28 日

出張報告

1.　訪問者：　濱崎・團　・佐野・三井（M1/海洋大）

2.　訪問国・機関名：　タイ・水産局

3.　相手国対応責任者：　Chutima KHOMVILAI 博士（タイ水産局）

4.　訪問日程：　2019 年 1 月 23 日～26 日

5.　活動内容：

1 月 24 日、水産局 Kanonkporn Kessuwan 博士らに同行していただき、ガザミ種苗生産の事業実施場所であるペチャブリ沿岸漁業研究開発センターを訪問した。所長からセンターの概要、タイにおけるガザミ種苗生産などに関して説明があった（写真 1）。センターで生産されたガザミ種苗の多くが国の事業として放流されており、日本と同様な形態であることが大変興味深かった。佐野から本事業の目的や内容等の説明を行った後、濱崎教授より甲殻類の種苗生産や放流に関する最新の研究成果（写真 2）、團准教授からガザミと軟体動物の種苗生産に関する最新の研究成果について講演し（写真 3）、意見交換した。センター施設を見学しつつ、センターにおける研究成果について説明を受けた（写真 4）。特に、親ガニに抱卵されている卵を採取して孵化させる技術は大変興味深く、種々の意見交換を行った（写真 5-7）。本事業のマレーシアでのノコギリガザミの種苗生産にも応用できるかもしれない。また、地域が行うガザミ幼生の孵化放流事業施設”ガザミシードバンク”を見学し、タイにおける全国的な漁民・地域住民による放流への取り組みについて説明を受けた（写真 8-10）。親を容器に収容し、放卵したら、そのまま幼生を海に放流するというもので、地域住民で取り組めるようなものとなっており、大変興味深く、水産資源保全への日頃の啓蒙活動としても良いアイディアと思われる。

1 月 25 日、ペチャブリの王家が運営する水質浄化施設を訪問し、デルタ地帯であるペチャブリにおける汚水浄化と水質管理について施設見学しつつ説明を受けた（写真 11）。さらに、王家が運営する種苗生産施設を訪問し、ガザミや魚類などの種苗生産について施設を見学しつつ、説明を受けた（写真 12）。ペチャブリ沿岸漁業研究開発センターが技術協力を行っており、海ぶどうの生産やデルタ地帯で高塩分となる特性を利用したブラインシュリンプの生産など興味深かった（写真 13）。

写真 1　Pham 所長のレクチャー

写真 2　濱崎教授によるレクチャー

写真 3　團准教授によるレクチャー

写真 4　稚ガニ飼育池

写真 5　卵の親ガニからの分離

写真 6　分離卵

写真 7　卵の検鏡

写真 8　“ガザミシードバンク”の孵化施設

写真 9　飼育される親ガニ

写真 10　タイ全体の
“ガザミシードバンク”

写真 11　王室水質浄化施設

写真 12　王室種苗生産施設

写真 13 海ぶどう生産

6. 問題点、改善点、提案等:

特になし

（報告記述：東京海洋大学・佐野元彦）